

「令和８年度全国学力・学習状況調査」の結果について(大津町)

1 調査の概要

(1) 調査対象

小学校６年生の児童、中学校３年生の生徒

(2) 調査期日

令和８年４月２３日（木）※中英「話すこと」４月２４日～５月８日までの実施

(3) 調査内容

①教科に関する調査（国語、算数・数学、英語）下記i,iiを一体的に問う。

i 身に付けておかなければ後の学年の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等

ii 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

②生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

・学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査

2 教科に関する調査結果

1 大津町と熊本県、全国の平均正答率の比較

(1) 小学校 ７校

《小学校》 ６年生	大津町	熊本県	全 国
国 語	５７．０	５９．０	６０．９
算 数	５０．０	５５．０	５６．４

i 国語

分類		区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
				食教育委員会	熊本県（公立）	全国（公立）
全体			13	57	59	60.9
学習指導要領 の内容	知識及び 技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	4	57.9	62.4	66.8
		(2) 情報の扱い方に関する事項	2	48.8	50.3	52.3
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	0			
	思考力、 判断力、 表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	63.1	63.8	65.8
		B 書くこと	2	44.2	44.0	45.7
		C 読むこと	2	67.4	66.7	65.9
評価の観点	知識・技能	6	54.9	58.3	62.0	
	思考・判断・表現	7	58.9	59.0	60.1	
	主体的に学習に取り組む態度	0				
問題形式	選択式	9	57.9	59.7	61.9	
	短答式	2	52.9	56.2	62.6	
	記述式	2	57.3	56.6	54.9	

○「読むこと」は県を０．７ポイント、全国を１．５ポイント上回った。また、記述式問題は県を０．７ポイント、全国を２．４ポイント上回っており、文章や資料から必要な情報を捉え、自分の考えを記述する力に成果が見られた。

▼ 全体では県を２．０ポイント、全国を３．９ポイント下回った。特に、「言葉の特徴や使い方に関する事項」は県を４．５ポイント、全国を８．９ポイント下回り、短答式問題も全国を９．７ポイント下回っていることから、語句や漢字等の基礎的な知識・技能を確実に身に付けることに課題が見られた。

ii 算数

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
			貴教育委員会	熊本県（公立）	全国（公立）
全体		16	50	55	56.4
学習指導要領の領域	A 数と計算	8	55.0	59.4	61.1
	B 図形	4	46.9	51.8	55.3
	C 測定	1	71.9	76.8	78.1
	C 変化と関係	3	33.0	38.2	41.1
	D データの活用	4	45.5	47.4	48.6
評価の観点	知識・技能	12	53.4	58.0	60.1
	思考・判断・表現	4	40.7	44.6	45.4
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	5	49.5	54.1	56.0
	短答式	8	52.9	57.3	59.7
	記述式	3	44.4	48.3	48.5

- 全国及び県を上回った領域・観点はなかったものの、「データの活用」は県との差が1.9ポイント、全国との差が3.1ポイントにとどまり、他の領域と比べて差が小さかった。
- ▼ 全体では県を5.0ポイント、全国を6.4ポイント下回り、全ての領域、観点及び問題形式で県、全国を下回った。特に、「変化と関係」は県を5.2ポイント、全国を8.1ポイント、「図形」は県を4.9ポイント、全国を8.4ポイント下回っており、数量の関係を捉えて考察する力や、図形の性質を理解し活用する力に課題が見られた。

(2) 中学校(2校) ※英語のみIRTスコアで比較(500が基準)

《中学校》 3年生	大津町	熊本県	全 国
国 語	62.0	62.0	63.9
数 学	53.0	53.0	57.0
英 語	473(※)	478(※)	499(※)

i 国語

分類		区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
				貴教育委員会	熊本県〈公立〉	全国〈公立〉
全体			15	62	62	63.9
学習指導 要領の 内容	知識及び 技能	(1) 言葉の特徴や使い方にに関する事項	5	59.5	60.0	63.0
		(2) 情報の扱い方にに関する事項	1	70.1	68.0	70.4
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	0			
	思考力、 判断力、 表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	63.2	62.3	63.9
		B 書くこと	3	67.3	66.1	67.4
		C 読むこと	3	58.7	58.8	59.7
評価の観点	知識・技能	6	61.2	61.3	64.2	
	思考・判断・表現	9	63.0	62.4	63.7	
	主体的に学習に取り組む態度	0				
問題形式	選択式	9	70.6	70.7	72.7	
	短答式	3	52.6	53.1	55.8	
	記述式	3	47.1	44.7	45.5	

- 「情報の扱い方に関する事項」は県を2.1ポイント上回り、全国とは0.3ポイント差であった。また、「書くこと」は県を1.2ポイント上回り、全国とは0.1ポイント差、記述式問題は県を2.4ポイント、全国を1.6ポイント上回っており、情報を整理し、根拠を明確にして表現する力に成果が見られた。
- ▼ 全体では県と同程度であったが、全国を1.9ポイント下回った。特に、「知識・技能」は全国を3.0ポイント、短答式問題は全国を3.2ポイント下回っていることから、言葉の特徴や使い方等に関する基礎的な知識・技能の定着に課題が見られた。

ii 数学

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
			貴教育委員会	熊本県〈公立〉	全国〈公立〉
全体		16	53	53	57.0
学習指導要領の 領域	A 数と式	5	68.2	66.1	67.8
	B 図形	4	41.7	41.7	48.7
	C 関数	3	49.1	50.2	54.8
	D データの活用	4	48.4	50.5	53.5
評価の観点	知識・技能	12	59.0	59.4	63.0
	思考・判断・表現	4	35.2	34.3	39.1
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	3	58.5	57.8	59.3
	短答式	9	59.1	59.9	64.2
	記述式	4	35.2	34.3	39.1

- 「数と式」は県を2.1ポイント、全国を0.4ポイント上回った。また、「思考・判断・表現」は県を0.9ポイント上回っており、数や式を用いて考察し、表現する力に一定の成果が見られた。
- ▼ 全体では県と同程度であったが、全国を4.0ポイント下回った。特に、「図形」は全国を7.0ポイント、「関数」は5.7ポイント、「データの活用」は5.1ポイント下回っていることから、数学的な見方・考え方を働かせて問題を解決する力に課題が見られた。

iii 英語

平均正答数集計値

	生徒数	平均正答数	標準偏差
大津町教育委員会	383	3.2 / 7	2.2
熊本県(公立)	13,827	3.4 / 7	2.1
全国(公立)	839,203	3.7 / 7	2.1

技能別平均正答数集計値

	聞くこと	読むこと・書くこと
大津町教育委員会	1.1 / 2	2.1 / 5
熊本県(公立)	1.1 / 2	2.3 / 5
全国(公立)	1.2 / 2	2.5 / 5

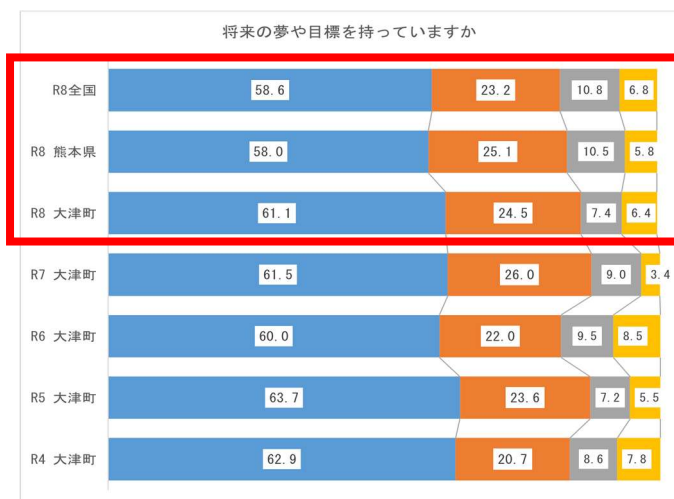
IRTスコア集計値

	平均IRTスコア	標準偏差	パーセンタイル値				
			10%	25%	50%	75%	90%
大津町教育委員会	473	115.7	347	391	462	546	624
熊本県(公立)	478	108.5	350	403	471	546	615
全国(公立)	499	113.7	364	419	494	571	641

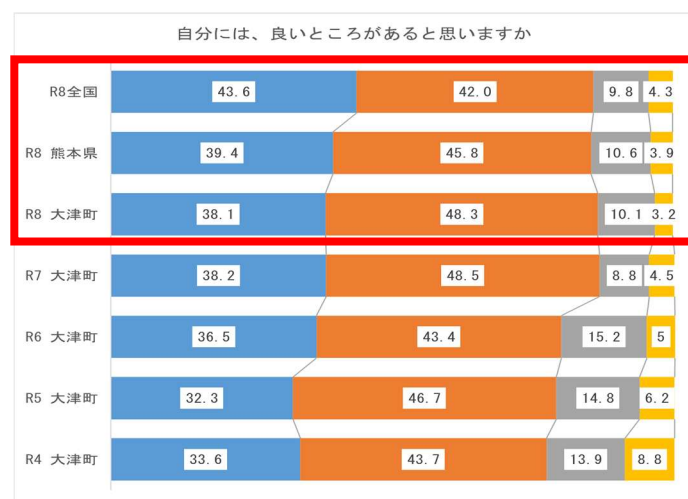
- I R Tスコアは473で、県（478）との差は5ポイントであり、県とおおむね同程度であった。
- ▼ I R Tスコアは全国（499）を26ポイント下回った。領域別・問題別の結果も踏まえながら、英語を聞いたり、読んだりして得た情報を整理し、自分の考えを英語で表現する力の育成に向けた授業改善が必要である。

3 質問紙による調査 （1）小学校

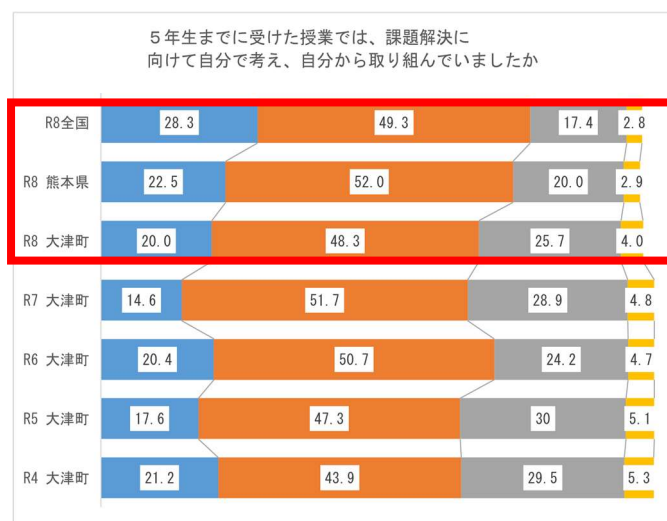
① 将来の夢（キャリア教育）



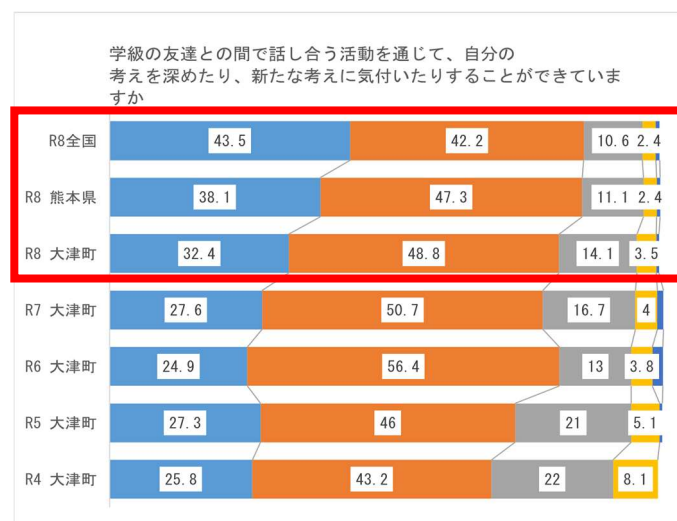
② 自己肯定感（特別活動）



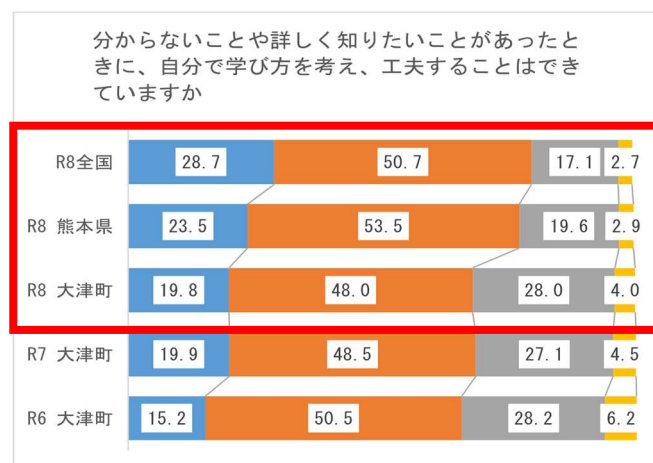
③ 主体的な学び



④ 対話的な学び、深い学び



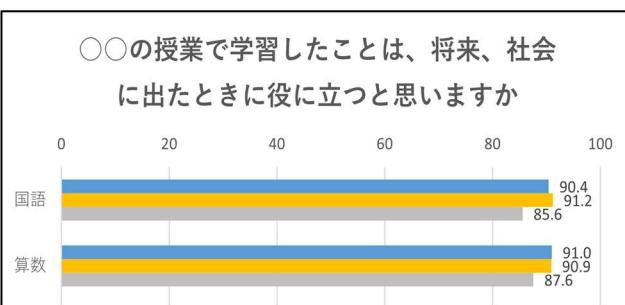
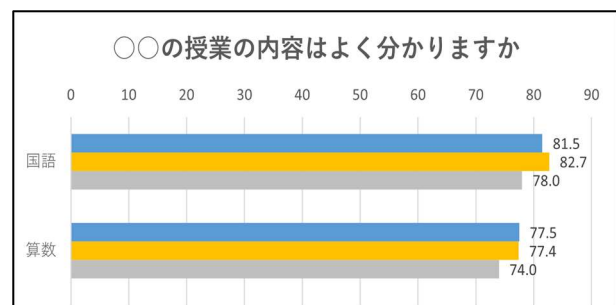
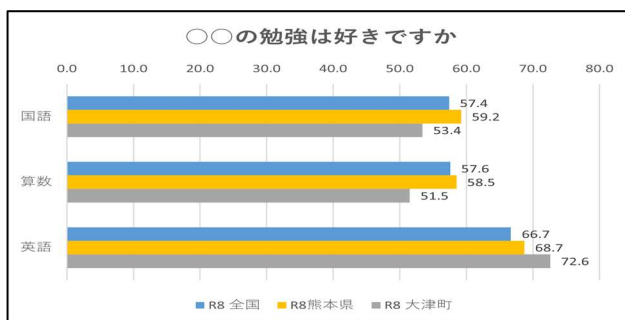
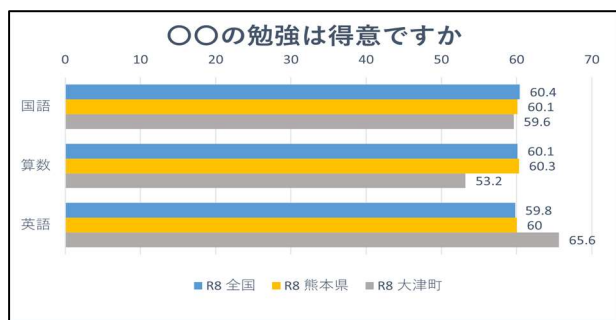
⑤ 自己調整



○ 将来の夢や目標を持つ児童や、自分のよさを認めている児童の割合は、県・全国を上回った。また、主体的・対話的な学びについても、前年度と比較すると改善が見られた。

▼ 自分で学び方を考え、工夫する力は、全国を11.6ポイント、県を9.2ポイント下回った。また、主体的な学びは全国を9.3ポイント、県を6.2ポイント、対話的な学びは全国を4.5ポイント、県を4.2ポイント下回っている。児童が自ら学習方法を選択・調整するとともに、課題解決や対話を通して「分かった・できた」と実感できる授業づくりを一層進める必要がある。

⑥ 教科の学習について（「当てはまる」＋「どちらかといえば、当てはまる」）

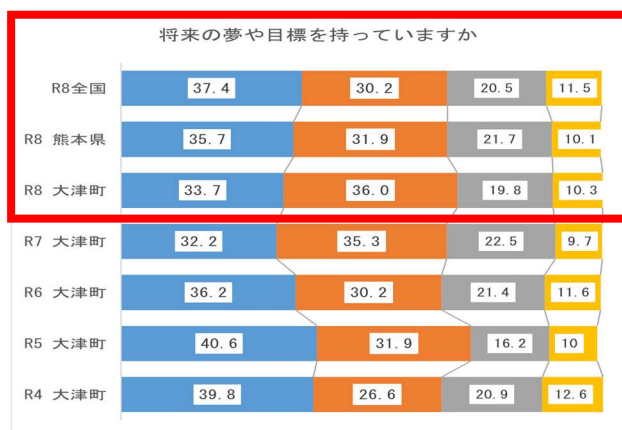


○英語については、2つの質問で肯定的な回答が多く、国や県を大きく上回っている。

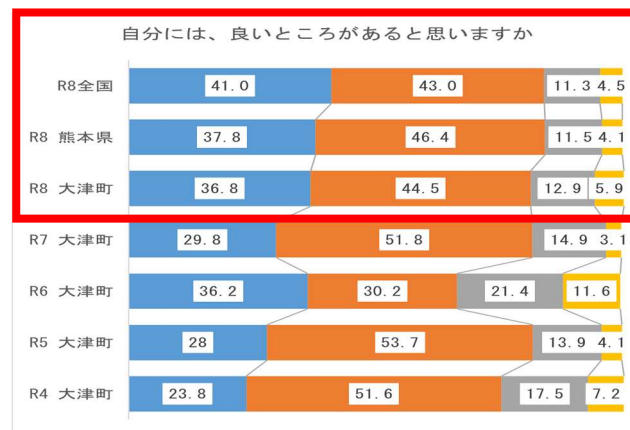
▼国語、算数の「得意ですか」「好きですか」の質問は、どの教科も国や県を下回り、肯定的な回答が6割いかなかった。授業の内容が分かるかどうかについて肯定的な回答は8割弱ある中、好きかどうか（学習意欲）については6割に満たないという課題が残っている。得意でもなく、好きでもないが、内容はわかっており、将来役に立つとは思っている実態から、自己調整の観点と関連付け、一層子どもが中心となる授業改善をしていく必要があると考える。

（2）中学校

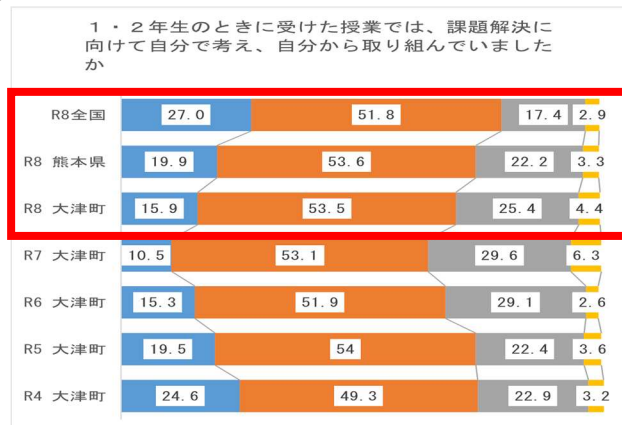
① 将来の夢（キャリア教育）



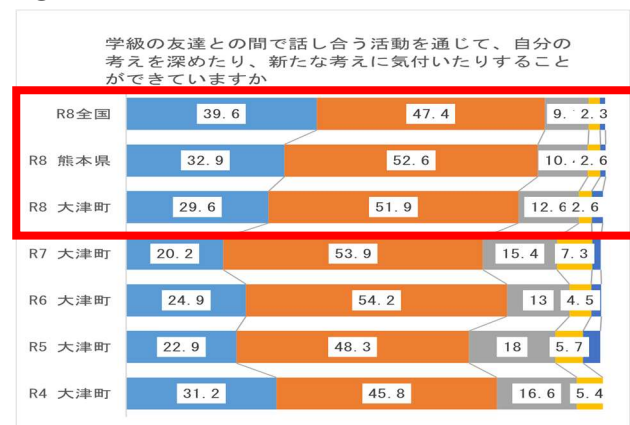
② 自己肯定感



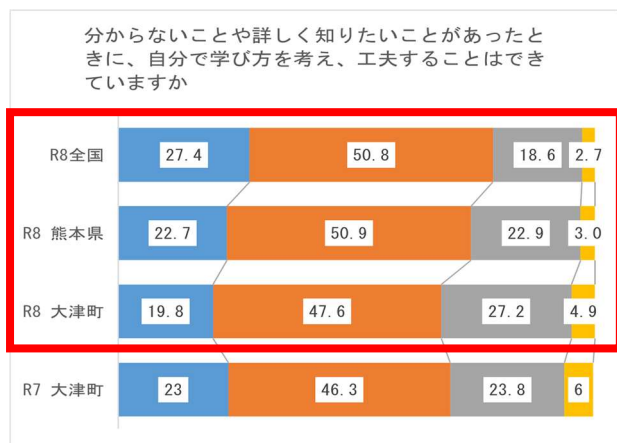
③ 主体的な学び



④ 対話的な学び、深い学び



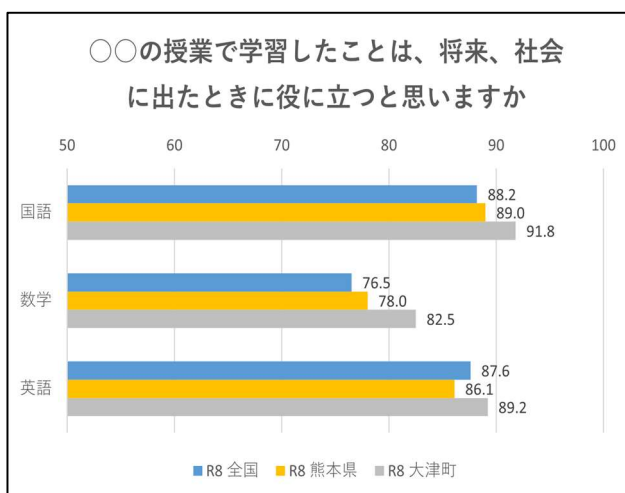
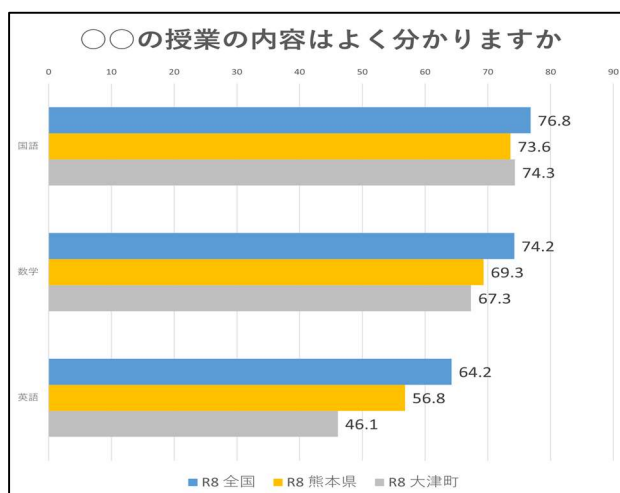
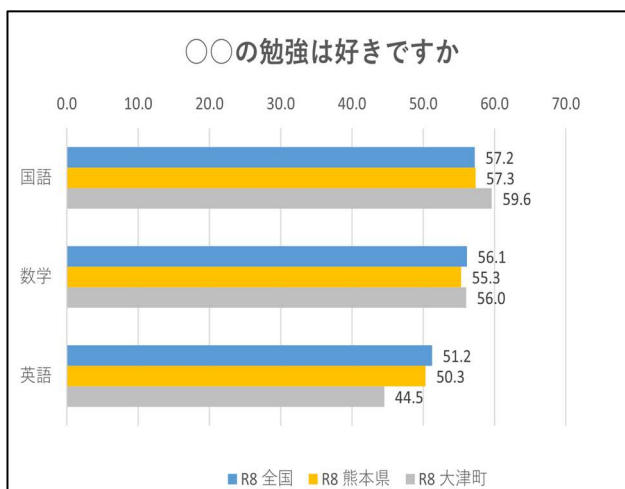
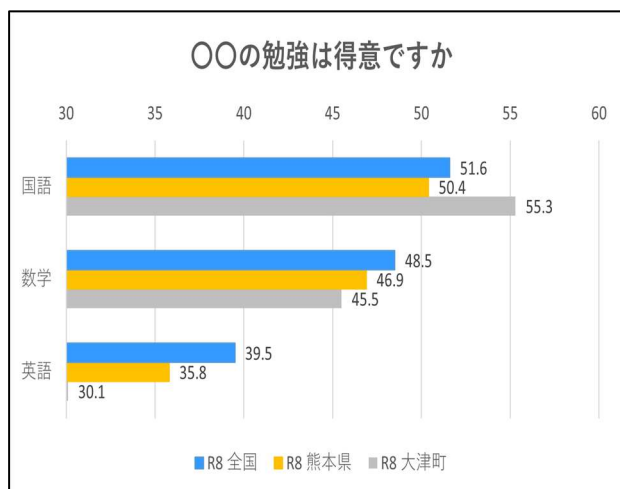
⑤ 自己調整



○将来の夢や目標を持つ生徒の割合は69.7%で、県・全国をともに2.1ポイント上回った。また、主体的な学びは前年度から5.8ポイント、対話的な学びは7.4ポイント上昇しており授業改善の成果が見られる。

▼自己肯定感や、自分で学び方を考え工夫する力は、県・全国を下回っている。生徒が自分のよさや成長を実感し、自ら学習を調整できる授業づくりが必要である

⑥ 教科の学習について（「当てはまる」＋「どちらかといえば、当てはまる」）



○「授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ」と回答した割合は、国語・数学・英語の全教科で県及び全国を上回った。特に数学は、全国を6.0ポイント、県を4.5ポイント上回っている。また、国語では、「好き」が全国を2.4ポイント、県を2.3ポイント、「得意」が全国を3.7ポイント、県を4.9ポイント上回った。各教科の学習の意義を実感するとともに、特に国語に対する興味・関心や自己肯定感が高まっていることは、大きな成果である。

▼一方、「授業の内容がよく分かる」について、数学は全国を6.9ポイント、英語は全国を18.1ポイント下回った。また、英語では「好き」「得意」も県及び全国を下回っている。英語の学習が将来役に立つと感じている生徒は多いことから、その高い有用感を、授業の理解や「分かる・できる」という実感につなげる授業改善が必要である。